



おしえの花束

雲晴

お盆号

「雲晴」第十一号

平成二十六年七月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125 東京都葛飾区東金町五丁目四六一番

電話(03) 3627-1541

FAX(03) 5699-1591

無縁仏のご供養



今年もお盆がまいります。私たち日本の祖先が残してくださったゆかしい行事を、どうぞ心をこめておつとめください。

さて私たちは、つながりの深い菩提寺へお参りしたり、わが家のお墓へお参りして、ご先祖や身近に亡くなった方のご供養をさせていたただくわけですが、ときおり、無縁、といわれる、もろもろなご供養する方のおられないお墓のあることに気づきます。

長い間、風雨にさらされ、こけむして茂る草花のなかで、眠るように小さな石のお墓が身を寄せ合っていることもあります。

こんなお墓を昔から、無縁仏、と呼んでいますが、もし無縁仏らしいお墓をごらんになった

ら、ぜひご供養なさってあげてください。

雑草を払い、お花、お水、お線香を差し上げてください。そこに眠られる方々は、むろんどんな方々か知るよしもありませんが、仏さまになられたことには違いありません。どうぞあなたのご先祖さまと同じように、心をこめて無縁となられた仏さまのご供養をなさっていただきたいと存じます。どれほどか、お喜びになることでしょう。

無縁とは申しますが、たまたま短い間の親族がはつきりしないという程度であって、ほんとうは私たちと結ばれている有縁の方々なのです。私たちが、一人一人自分の歴史をさかのぼってまいりますと、そこはもうだれも彼も親族になつてしまいます。ですから、無縁、などというものはなく、ご先祖ならばどなたであれ、私にとって有縁の方なのです。

さて、生きている私たち「あの人とは縁切りだ」とか「縁がなかったからあきらめようよ」などいいいますが、それは一時の現象であって、仏さまの眼から見れば、みんなだれも彼も深い縁でつながっているのです。

ご縁を大切にしてお盆にしてください。

十数年前の葬儀で忘れられない出来事がありました。お檀家さんの葬儀で出棺の時でした。最後のお別れの時、お棺にはご家族それぞれの思いが込められた品物が入られています。

すっかり大きな字で書かれているこの手紙を見て、思わずハッとさせられた事をよく覚えていきます。まだ小学校に上がる前ぐらいでしようか、こんな小さな女の子が何と浄土宗の教えをこく

く、必ずこの世に還る(げんそう)というものであります。仏となって浄土で修業を積み、迷える衆生を救うため再びこの世に戻って来ることが肝心であるというものです。

●「死んでも元気でいてね」●真林院瑞正寺住職 林 清方

私も必ずお念仏を称えながら一緒にお別れをさせて頂きますが、ふと見るとお棺の中にお孫さんから好きだったお婆ちゃんへのお手紙が入っていました。「しんでもげんきでいてね」と

自然に当たり前のように理解していることに、念仏の教えを説く僧侶の身として大変に驚かされました。浄土宗の教えは臨終を迎えても、西方浄土へ往生する(往生)だけではな

く、必ずこの世に還る(げんそう)というものであります。仏となって浄土で修業を積み、迷える衆生を救うため再びこの世に戻って来ることが肝心であるというものです。お孫さんからの「しんでもげんきでいてね」というこの思いは、自分の悲しみを超えて旅立つお婆ちゃんへの励ましの言葉だったのかもしれない。

民話の小箱

天狗さんの寺 ● 思いやり



ある所に、周りでどんな火事が起きてもそこだけはけつして燃え広がらないというお寺がありました。いったい何故か？

犀川大橋(さいがわおおし)のたもとから寺町台へ向かう急な坂道を、はまぐり坂といえます。

享保(きょうほう)十八年にこのあたりに大火事があり、その後、細い坂道を広い坂道に作り直しました。

坂の上のお寺が妙慶寺(みょうけいじ)。大火事の後、近所の人たちは「ふ

しぎやなあ、周りはみんな焼けてしまったのに、妙慶寺だけが焼け残った。やっぱり天狗(てんぐ)さんが守ってる、天狗さんの寺や」とうわさしあいました。その後も、妙慶寺に燃え移ったことはありません。

住職は、ある日だん家でお経をあけた帰りに、武蔵が辻(むさしがつじ)あたりを歩いていました。

「近江町(おうみまち)の市場をのぞいて町人の暮らしぶりでも見ようか」市場は活気にあふれていました。

「おや、なにがあつたんだろう」すぐ先で人だかりがしていました。住職は人がきの後ろからのび上がって中のぞきこみました。

「羽のトンビが大勢の子どもたちにつかまえられて、羽をばたばたさせていました。」

「こいつは何べんも魚をぬすんだ悪いトンビや。こんなどろぼうトンビはたき殺させ」

人がきをかき分けて住職は「ちよつと待って下さらんか。悪いトンビとはいえ、殺すのはようない」「いやおしょうさん。こいつを生かしておいたらためにならん。また魚をぬすむがに決まってる」

一口法話



お念仏の因縁

「因縁をつけられた・・・」という、普通は言いがかりをつけられたという意味ですが、「因縁」とは、お釈迦様が説く、この世の在り方のことなのです。物事には必ず因(原因)があり、それが縁(諸々の条件)にふれて、果(結果)が生ずるといふことなのです。

一粒の花の種があります。それを、机の上に置いて眺めているだけでは、いつまで経っても花は咲きません。その種を土に埋めてやり、さらに水や陽の光に恵まれて初めて花が咲きます。

二粒の種を同じように蒔いたとしても、片方は花を咲かせて、もう片方は鳥に食べられたり、ふみつけられて、花を咲かせられないかも知れません。

何事も因と果の間に、縁が働きかけこの縁の関わり方によって物事の結果は変わってきます。

心貧しき人は 不平不満で一日過ごし心豊かな人は お蔭お蔭で一日過ごす
同じ一日を過ごすにも、不平不満は

七月・八月のお盆法要

本年の七月お盆法要は次のとおりです。

七月十三日(日)

午後二時より

毎年七月にお参りの方は同封のご案内をご覧ください。
なお八月お盆法要は、

八月十三日(水) 午後三時より行います。

毎年八月にお参りの方には、来月七月に棚経参り
(本年は金町・上小合・三郷地区)のお知らせとともに、あらためてご案内いたします。

秋の団参のお知らせ

本年の団体参拝は、愛知県三河岡崎にあります「大樹寺」をお参りします。

この寺は徳川家康がご幼少の頃に過ごした寺として有名です。

今回は貞林院瑞正寺に集合してバスで行きますので、沢山のご参加をお待ちしております。詳細については別添の団参ご案内をご覧ください。

日時 十一月十七日(月)～十八日(火)

参加費 三万六千円

施餓鬼の手作り弁当は

本年が最後となります

三十年以上続きました手作りの五目寿司弁当は、本年をもって終了となりました。昭和五十四年に先代が旧貞林寺と瑞正寺の合併を行い、それを契機に八月の施餓鬼を五月十四日に行うようになりました。以来お供物として手作りの五目寿司弁当をお出ししてきました。これまで総代世話人さんの奥様やお嫁さんを中心に沢山の方々にご協力いただき今まで続けてくることができました。本当に長い間お世話にな

り有難うございました。心よりお礼申し上げます。

廃止の理由につきましては、お蔭様で檀家数が年々増えたため、現在の二四〇食が既に限界となったことに加え、温暖化の影響なのか五月でも三〇度近い陽気も多々あることから、もはや寺としても安心してお弁当を提供できることが難しくなってきたことによるものです。長年の伝統の味が消えることは寂しいかぎりですが、諸般の事情をお汲み取りいただきご理解下さい。



「お弁当作りはプロ顔負けです」

来年からは市販のお弁当となる予定ですが、これまで同様、お早目にお召し上がり下さいますようお願いいたします。



「お茶の時間でちょっと休憩」

◇これも仏教用語なの?◇

「ぶつごんごしよ」

仏教が日本に伝来してから約一五〇〇年。長い歴史の中で知らずに様々な仏教用語が日常生活で使われていますので、今回よりご紹介していきます。「どっこいしょ」は六根清浄(ろっこいしょうじょう)が語源といわれています。六根とは仏教語で人間の感覚や意識である六つの器官、眼・耳・鼻・舌・身・意のことです。これらを清浄にして修行に励むという意味が込められています。

修行者が山に登る時などに唱えている「ろこんじょう」が「どっこいしょ」となったと言われています。

(貞林院瑞正寺)